

生協学生委員による Web 地図を用いた自転車安心安全マップの 取り組み

橋本拓磨*1・廣瀬翔矢*2・草場万里奈*3・佐藤由紀*4・笹谷康之*5・藤澤栄一*6
Email: y-satou@ritsco-op.jp

- *1: 立命館大学経済学部国際経済学科
- *2: 立命館大学経営学部経営学科
- *3: 立命館大学経営学部経営学科
- *4: 立命館生活協同組合
- *5: 立命館大学理工学部環境システム工学科
- *6: Funybear

◎Key Words 自転車点検, 安心安全マップ, 事故予防

1. はじめに

立命館大学びわこ・くさつキャンパス (BKC) では、下宿生とともに、自宅生が「最寄りの南草津駅から利用する」ケースを含めて、自転車通学者が多く、事故が多発している。

立命館生協において、生協学生委員会が中心になり行ってきた学生総合共済の事故予防・提案活動のひとつが、安心安全マップ作りである。マップ作りを通じて、学生に「ここが危ない」等の通学路の状況を認識してもらう機会をつくり、それを他の学生に共有することで、事故の防止につなげることを狙いとしている。従来のマップでは、ポスターを作成する等の方法で、在校生へ知らせることが一般的だった。

このマップを、大学生に身近な Web にすれば、在校生はもちろん、新入生とともに、その保護者等に、より広くキャンパス周辺の通学路の危険箇所を知らせることができる。危険箇所のデータを収集・掲示する自転車無料点検会に来られない場合でも、ネットにアクセスして、マップを見てもらえる。

そこで新入生に安全に通学してもらう意識を入学前から高めてもらうために、既に開発された Web 地図⁽¹⁾を自転車安心安全マップ向きにカスタマイズして利用し、2月3月の入学予定者への生協の説明会で活用することを目的とした。

2. 方法

以下のような流れで取り組みを実施した。

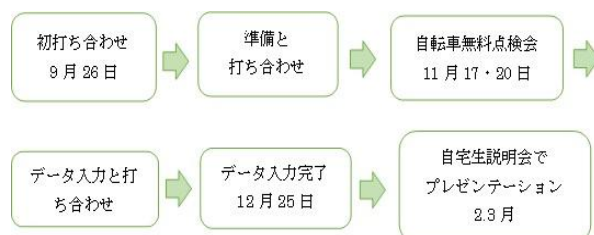


図1 取り組みのフロー

2.1 危険箇所のデータ収集

2014年11月17日および20日にBKC内で、自転車無料点検会を開催した。A0判の白地図を用意し、165人から危険と思う場所を聞き取り、180箇所にシールを貼付けることができた。



図1 自転車無料点検会での危険箇所の聞き取り

2.2 安全安心マップのデータ入力

自転車安心安全マップの Web 地図は、WordPress で構築されており、授業で使うサイトの一部のページを利用した。重複した危険箇所を81に集約して、マップに投稿した。主要な道路を線で色分けし、目印になる店舗の位置と名称を記し、キャンパスを面で塗って、わかりやすく表現した。

2.3 自宅生説明会

2015年4月入学生向け「自宅生説明会」は、2月～3月にBKCで合計9回実施し、271組489人が参加した。学生総合共済の制度説明の一環に組み込んだ組合員の事故予防・提案活動の一つの自転車無料点検会の取り組み紹介において、Web 地図を実際に表示し、新入生と保護者にプレゼンテーションを行った。キャンパスの立地状況を踏まえて、危険箇所が集中している場所を示して、安全に通学することの大切さを訴えた。Web 地図を帰宅後に閲覧してもらうために、配布資料にURLを掲載した。

プレゼンテーション時のアクセス解析を設定していなかったため、残念ながら、新入生や保護者からのアクセス数はわからない。

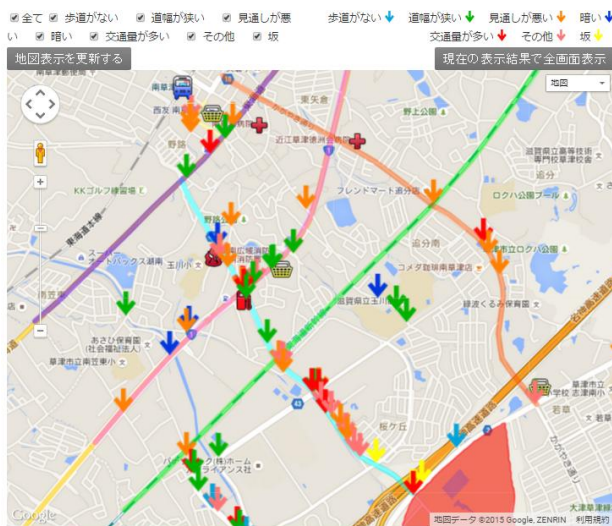
3. Web 地図の活用

危険箇所は6項目とその他に分類した(表1)。

表1 Web 地図の項目と箇所数

項目	箇所数
交通量が多い	12
坂	3
暗い	4
歩道がない	5
見通しが悪い	23
道幅が狭い	19
その他	16
合計	81

Web 地図の一覧画面には、危険箇所が7項目に色分けして表示される(図2)。チェックボックスを選択することで、任意の項目を選択表示できる。説明会では、項目ごとに絞った危険箇所を提示して説明した。また、右上のプルダウンメニューを選択すると、背景図のGoogle マップは、地理院地図、OpenStreetMap、空中写真等に切り替えて表示できる。



◆ こんにちは！私たちは生協学生委員会です ◆

図2 Web 地図の一覧画面

各危険箇所の矢印アイコンをクリックすると、その場所のストリートビューとGoogle マップが表示されて、位置と風景がよくわかる(図3)。説明を聞くだけではなく、参加者に画面をよく見てもらうことが出来た。

説明会後のアンケート自由記入の「参考になった・良かった内容」の設問に対して、学生総合共済の説明の一部であったにも関わらず、「Web 地図(安心安全マップ)」を3名が挙げた。また事後の個別相談では、参加者から「帰ってから見てみよう」「学生の予防活動でWeb ページまで作るのか」という意見を受けた。

Web 地図を通じて学生総合共済の制度とともに、日常の共済活動がどのようなものかを伝えることが出来たと考えられる。またキャンパス周辺の状況が同時にわかり、帰宅後に通学手段について新入生と保護者で話し合う契機になったと判断している。

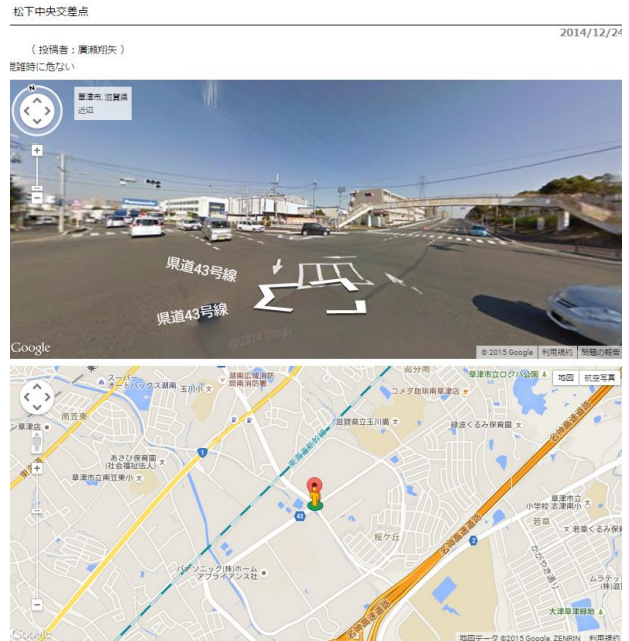


図3 危険箇所の表示画面

4. おわりに

Web 地図を通じて、新入生や保護者に「安全な通学」をアピールできた。

紙地図では点検会終了後に生協店舗店頭に掲示する等に留まっていたが、Web 地図化を通じてその場以外でも見てもらうことが出来たので、知らせる活動に広がりが出た。また紙の場合、単年・単発で使い捨てになりがちだが、今後はWeb 地図でデータを蓄積することや、更新を重ねることが可能になった。

ただ、在校生向けにWeb 地図を活用するまで至っていない。また、対象の新入生は全体の人数からすると少なく、新入生の実際の事故防止につながったとまでは言えない。

今後は、新入生向けとして、キャンパスを出て外部で行う出張下宿生説明会での活用を図りたい。また、写真等の充実により、大学周辺マップとしても見ることが出来るようにして、住まいさがしなどの生協事業とリンクすることを検討したい。さらに、バイク通学者への聴き取りへ広げることや、警察・行政・学生総合共済給付の事故発生箇所や発生数推移などと照合し、在校生向けを含めた、今後の新たな事故予防提案を検討したい。

Web 地図化を通じて、事故予防の呼びかけ・啓発を超える「発信」の可能性が広がる。Web 地図の特性を活かした活用の広がりが期待できる。

参考文献

- (1) 笹谷康之: “地域課題を見える化するWeb 地図”, 2014 PC Conference 論文集, pp.240-243 (2014).